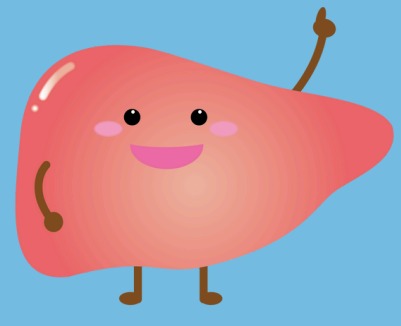
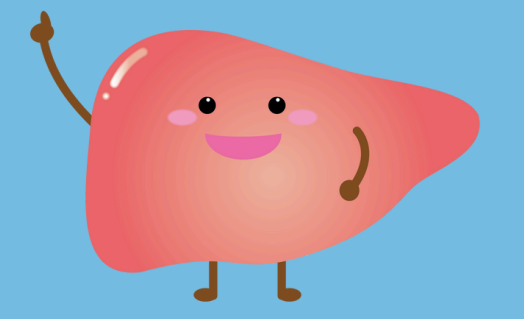


出張肝臓病教室 開催報告



日時：2026年5月8日（金） 15：00～16：00
場所：中国芸南学園



講義① 「肝炎ウイルスについての知識」

講師：広島大学病院 消化器内科 医師 藤野 初江

講義② 「肝炎ウイルス感染予防対策」

講師：広島大学病院 看護部 看護師 増田 幸子

講義概要

この度、中国芸南学園様からのご依頼により、職員の皆様を対象とした「肝炎ウイルスの知識および感染予防」に関する講演を行いました。職場健診でのウイルス検査の推進やワクチン接種率の向上のため、B型・C型肝炎ウイルスの特性、感染経路、進歩した治療法、予防策の一つワクチン接種について解説いたしました。また、利用者様のケアにおいて欠かせない「スタンダードプリコーション（標準予防策）」の重要性を再確認し、現場で直ちに実践できる具体的な手法についても詳しくお伝えしました。



肝炎ウイルスについての知識

広島大学病院 消化器内科
藤野初江

肝炎とは？

肝臓に炎症が起きて肝臓の細胞が破壊されている状態。

- ウイルス性肝炎
- 脂肪性肝炎
- アルコール性肝炎

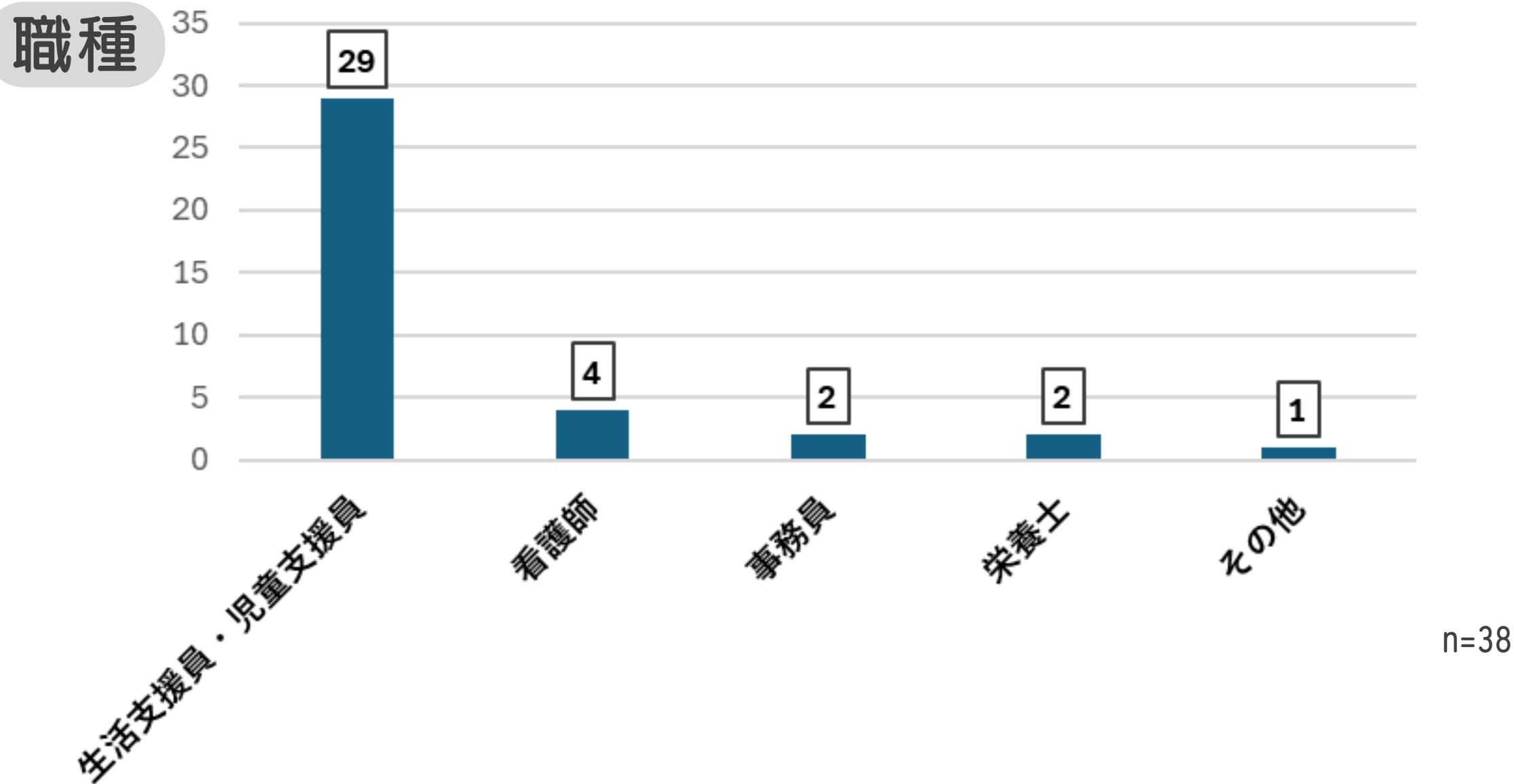
標準予防策（スタンダードプリコーション）

個人防護具（PPE）の使い分け

手袋	血液・唾液、分泌液（痰など）、排泄物、傷・創傷皮膚に触れるとき使用する
マスク ゴーグル	目・鼻・口へ飛び散り、汚染する恐れがあるとき使用する
エプロン ガウン	衣服を汚染する恐れがあるとき使用する

※別の利用者さんへの再使用は原則禁止です（手袋、エプロン、ガウン）

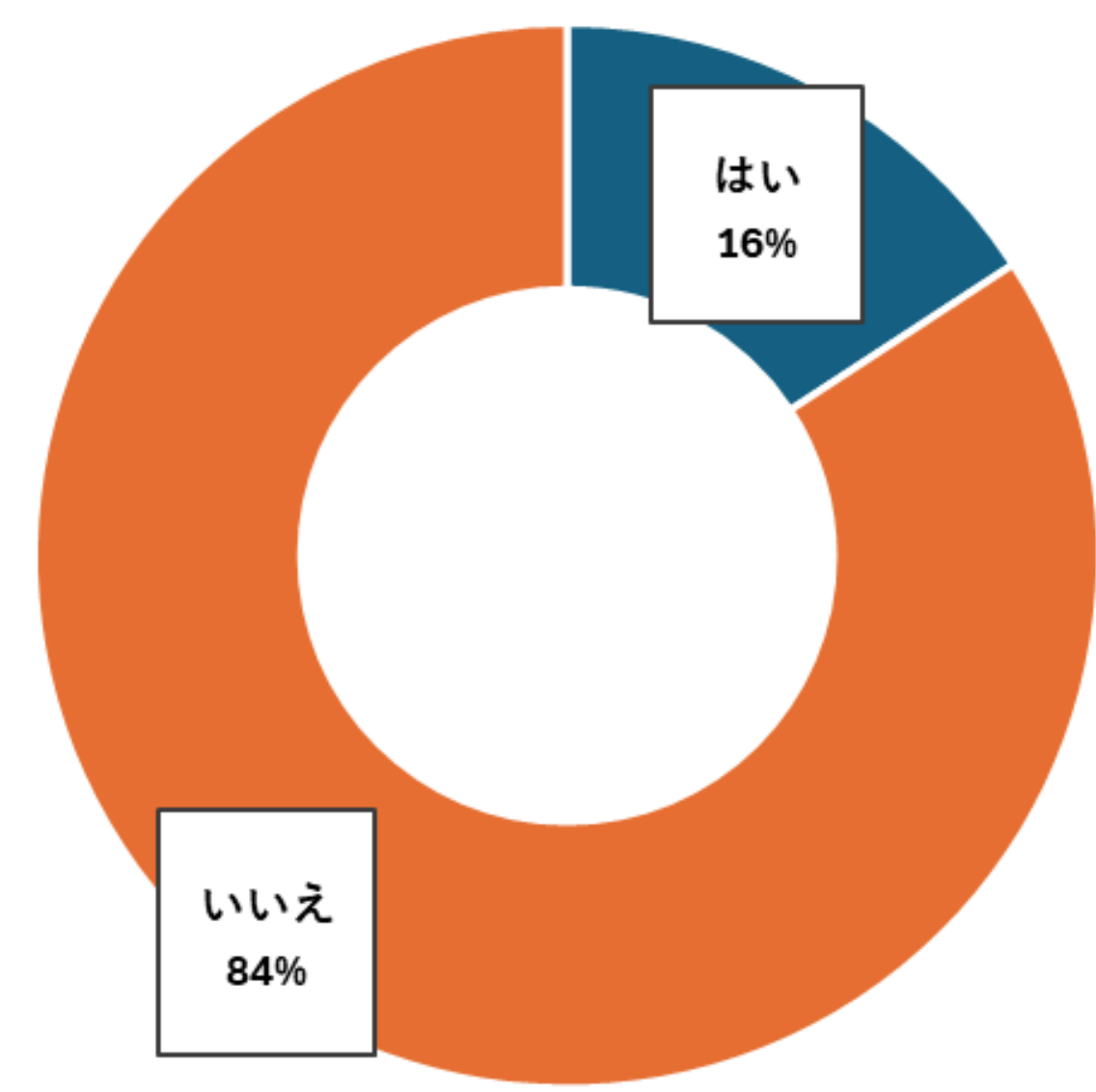
参加人数：38名 アンケート回答者数：38名



日常的に利用者と密接に関わる生活支援員・児童支援員の方が中心にご参加いただきました。感染予防の知識習得ニーズが高い層にお届けできた講義となりました。

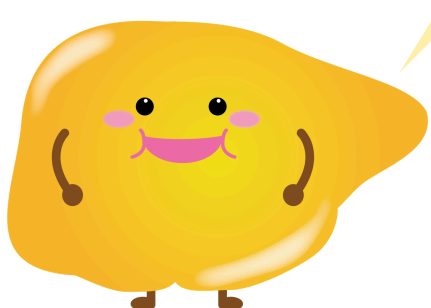
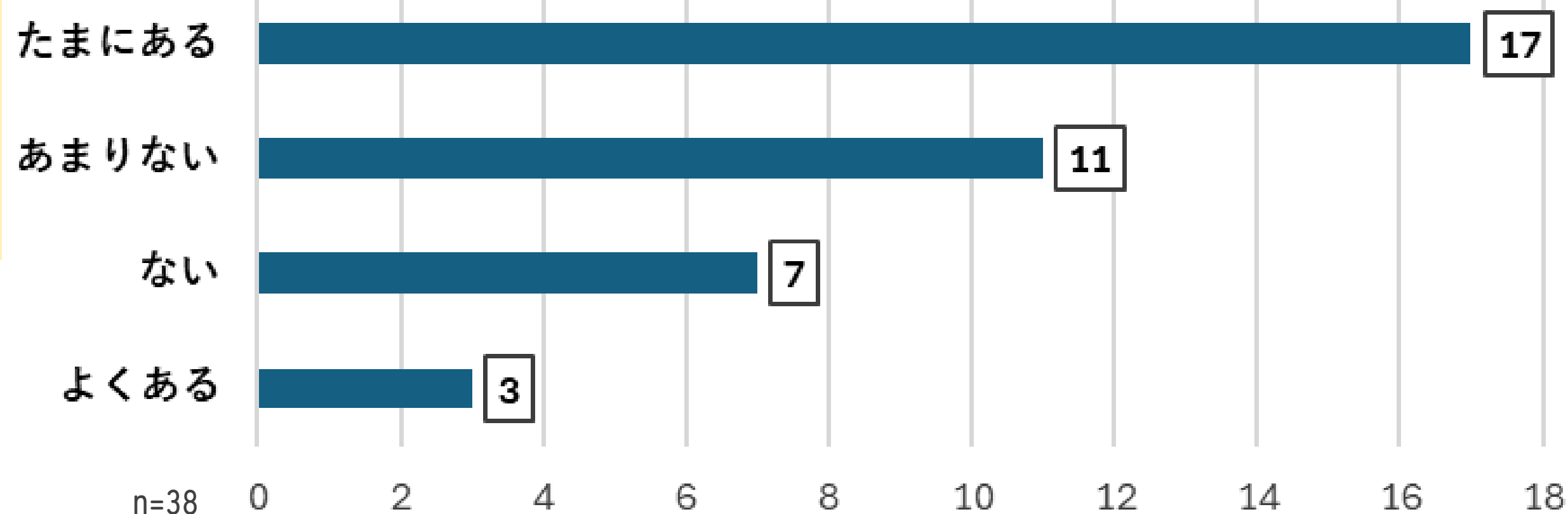
ワクチン接種歴

過半数以上の方がB型肝炎ワクチン未接種であることがわかりました。支援職として血液・体液に触れる機会がある環境を踏まえると、今後も接種促進に向けた情報提供を続けていくことが重要と考えています。

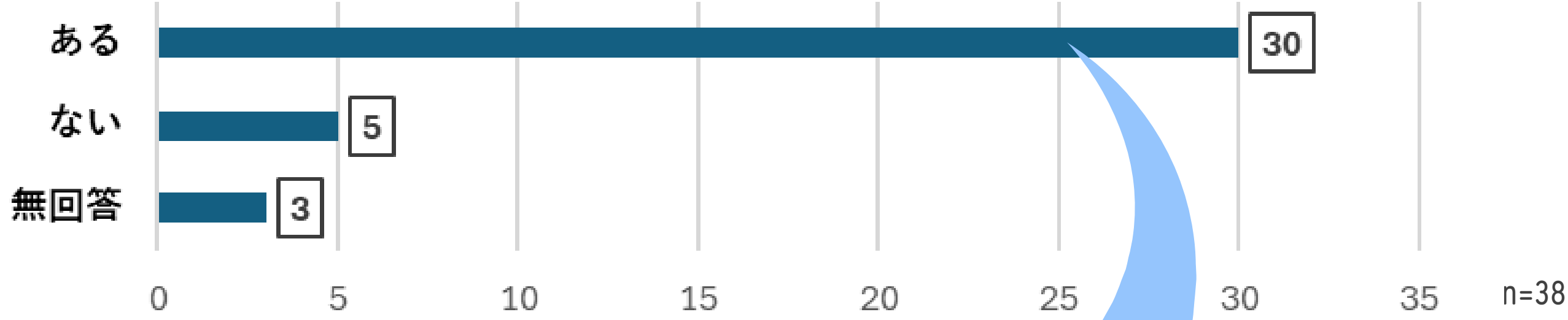


ウイルス性肝炎への対応で、不安や困りごとの経験があるか

半数以上の方が、ウイルス性肝炎への対応で不安や困りごとを経験されていることがわかりました。現場での対応力向上に向けた継続的な支援の必要性を感じています。



受講後の意識の変化



こんな意見がありました



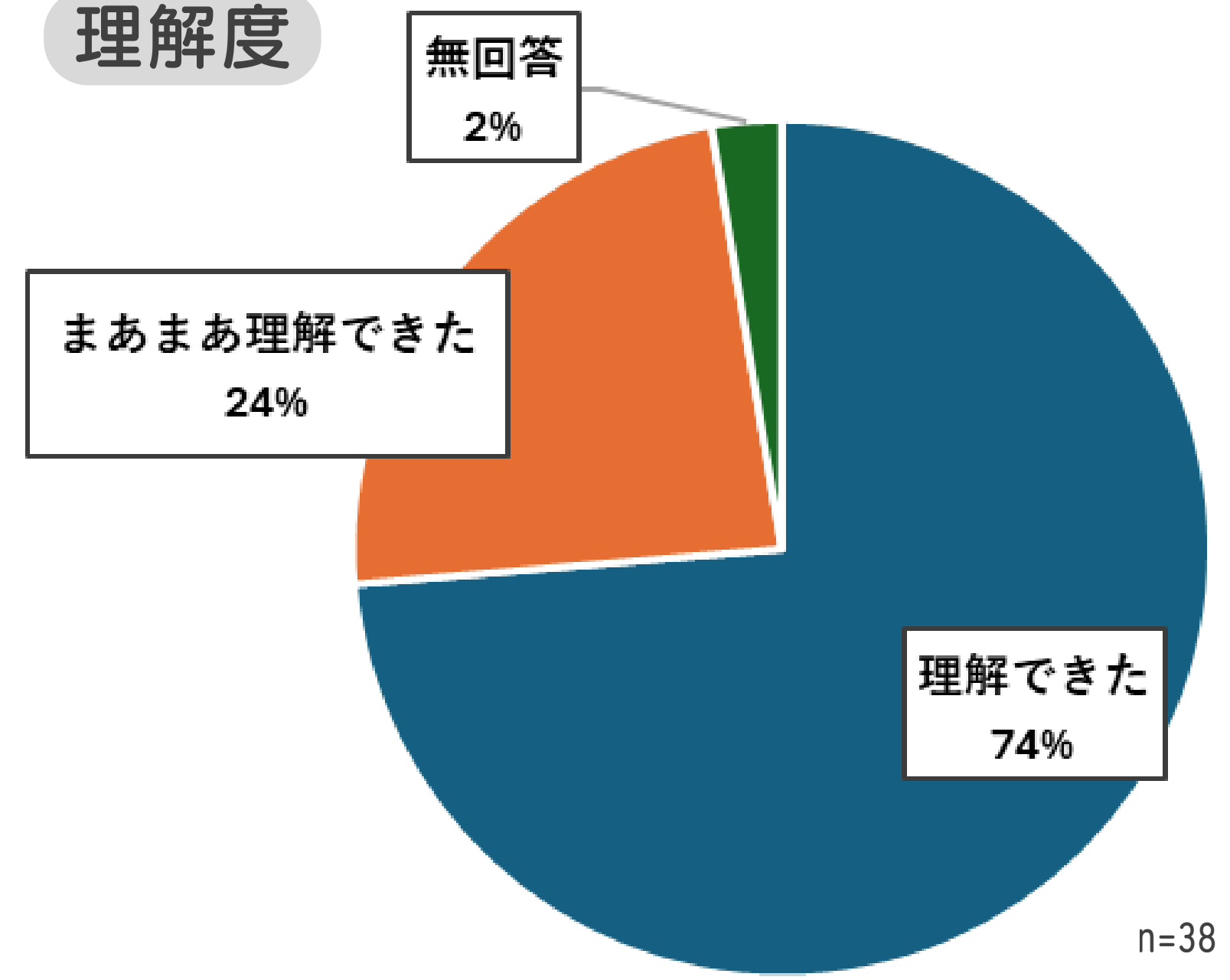
「スタンダードプリコーションを徹底・習慣づけたい」

「正しい知識を身に付けて実践したい」

「爪切り・歯ブラシの共有をしないようにする」

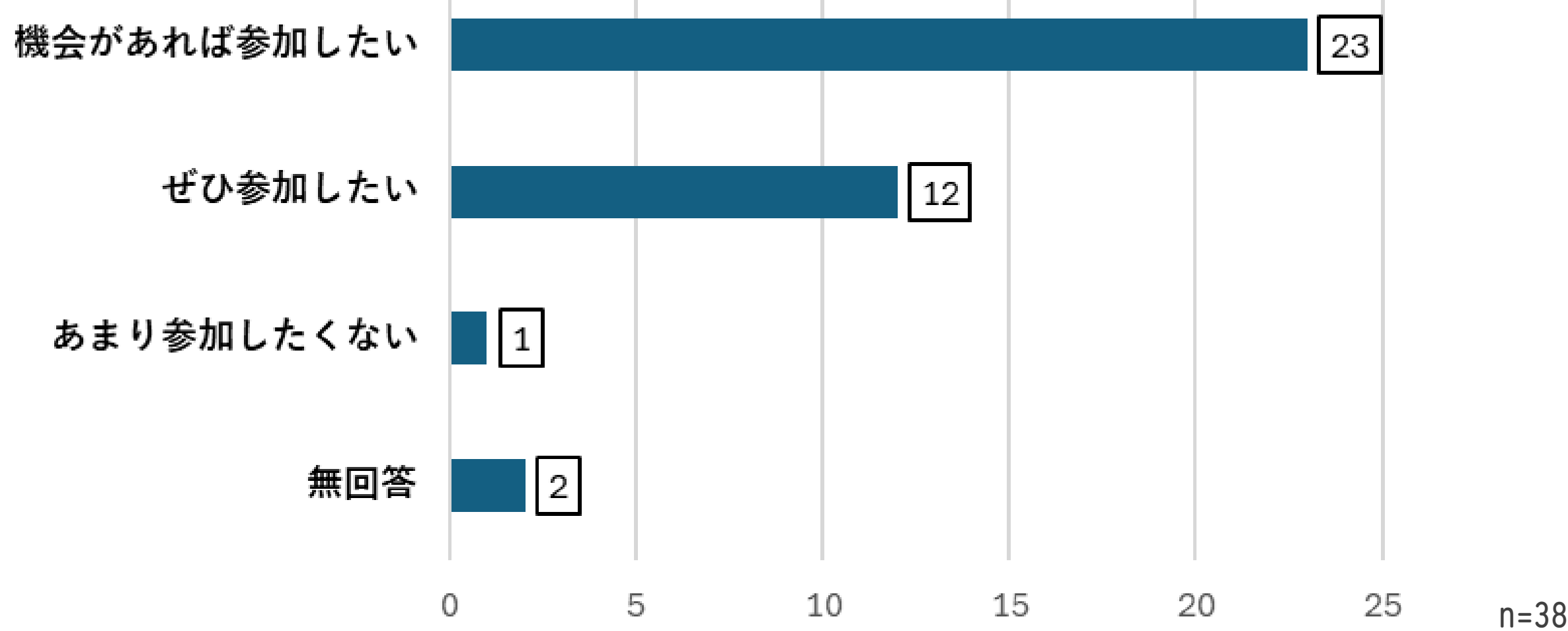
「手洗い・消毒をこまめにし、血液や体液に素手で触れないようにしたい」

理解度

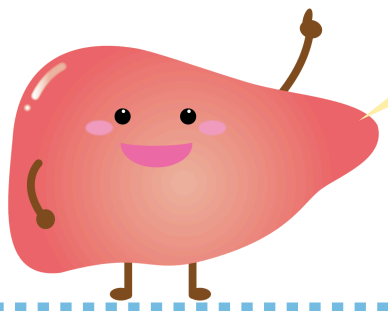


ほぼすべての方にご理解いただけました。

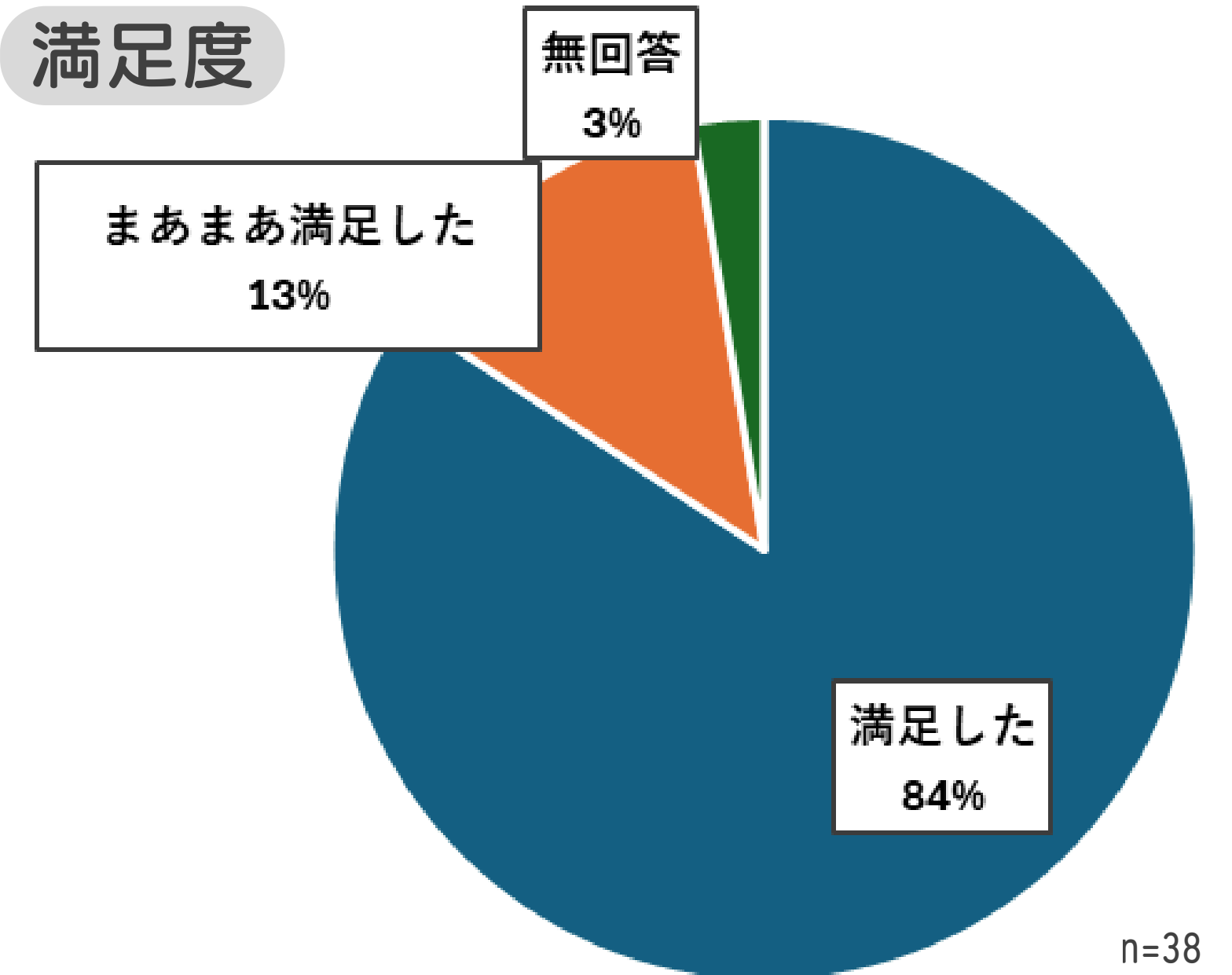
次回の参加意欲



9割を超える参加者が肝疾患に関する研修会への参加意欲を示したことから、継続的な教育支援へのニーズが確認されました。



満足度



非常に高い満足度をいただきました。今後もより良い講義となるよう努めてまいります。

総括

今回、中国芸南学園様より、「職場内環境をよりよくするため、肝炎予防について学ぶ機会を作りたい」とのご依頼をいただき、出張肝臓病教室を開催いたしました。

講演前の認知度調査では、施設職員73名のうち約8割が肝炎について「名前は知っている」「ほとんど知らない」と回答しており、現場における知識の不足と感染予防への潜在的な不安が浮き彫りとなりました。こうした背景を踏まえ、肝炎ウイルス検査やその治療の必要性、感染経路や感染予防としてスタンダードプリコーションの実践について重点的にお伝えしました。

講演後には、ワクチン接種に関する具体的な質問や、日常ケア場面における感染予防の方法について多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえました。受講後の意識変化として「ある」と回答した方が81%にのぼったことは、本教室が単なる知識の提供にとどまらず、現場での行動変容につながる機会となったことを示していると考えます。

また、今後も出張肝臓病教室を通じて、福祉関係の施設職員の皆さまが正しい知識のもと、安心してケアを実践できる環境づくりに貢献してまいります。

本教室の開催にあたり、ご協力いただきました中国芸南学園の皆様に心より感謝申し上げます。

